

1 事業名等(Plan 1)

事業名	後継者等肉用牛貸付事業											
所属名	農政部 畜産課 畜産振興グループ											
第七次総合計画	政策	4	「にぎわい」のあるまちをめざして	分野	4	畜産業	基本 施策	1	安定した畜産経営環境を整備する	施策	3	新たな担手の確保
予算科目	5	2	2	畜産振興	費	52215	後継者等肉用牛貸付	事業				
					費			事業				
					費			事業				
根拠条例・実施要綱・担当部門計画等	高山市雌牛無償貸付譲渡条例											
事業の実施主体	○ 市 市以外→											
事業の実施方法	○ 直営 指定管理 業務委託 団体等補助 その他→											

2 事業の目的・概要(Plan 2)

目的は対象(何を、誰を対象に)と意図(対象をどういう状態にしたいのか)を、概要は実施手法、手順等を記入

目的	誰のために(対象)	肉用牛繁殖農家	受益者数	208 人
	対象をどういう状態にしたいのか(意図)	・繁殖雌牛の増頭により、子牛の増産と飛騨牛の安定供給を図る。		
概要	事業の実施手法、手順	肉用牛繁殖雌牛の5年間無償貸付		
	事業始期・終期	始期	年度から	終期
			年度まで	設定なし
				○
今年度の改善・改革ポイント	前年度の評価結果、指示事項等を踏まえ記入 計画的な貸付事業の実施			

3 事業費の推移・結果(Do)

【コスト面】		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
区分							
総合計画計画額(当初)		31,000	31,000	37,177	39,000	31,000	
総合計画計画額(計画額)		36,000	36,000	37,177	39,000	31,000	
事業費	予算額	35,960	36,399	37,177			
	(計画・予算・見込・決算額)	35,960	36,398				
財源	国庫支出金	予算額					
		決算・見込					
	県支出金	予算額					
		決算・見込					
	地方債	予算額					
		決算・見込					
	受益者負担	予算額					
		決算・見込					
	繰入	予算額					
		決算・見込					
その他(基金繰入金)	予算額	35,960	36,399	37,177			
	決算・見込	35,960	36,398				
一般財源	予算額	0	0				
	決算・見込	0	0				
H17国勢調査	96,231 人 32,174 世帯	※コスト→行政活動の単位当たり経費算出、変動を経年比較により、効率性評価					
コスト	受益者負担率(受益者負担/事業費)	単位	%				
	市民1人当たりコスト(事業費/H17人口)	単位	円/人	374	378		
	1世帯当たりコスト(事業費/H17世帯)	単位	円/世帯	1,118	1,131		
指標	受益者1人当たりコスト(事業費/指標)	単位	円/人				
	その他(空欄にコスト指標名記入、事業費をベースとして単位当たりコストを算出)	単位	円/人				

【成果面】

活動・成果指標	活動指標	投入した行政資源を使い、どんな活動を行ったか、どのようなサービスを市民に提供したかを表す指標	指標名	貸付頭数	資料・出席 算出式	貸付実頭数 / 貸付予定頭数	単位	%
	成果指標	活動やサービスを行った結果、市民にどのような影響(効果)をどれだけ与えたかを表す指標	指標名		資料・出席 算出式		単位	

4 分析・評価(Check)

①事業の目的評価(事業の目的・概要に対する妥当性から事業の必要性を評価)	(現状及び判定理由)	後継者及び高齢者への肉用繁殖雌牛を無償により貸付を行うことにより、繁殖雌牛の増頭意欲向上や規模拡大につながり、肉用牛の産地間競争に打ち勝ち、飛騨牛銘柄の確立と拡大に必要な事業である。		
		A:非常に高い	B:高い	C:低い
		目的評価		
		A		
②コスト面評価(事業費の推移、コスト指標の結果からコスト面を評価)	(判定理由)	年間貸付頭数を基金取り崩しにより行っているため、貸付頭数を現状とするため。		
		減少	維持	増加
		③コスト面		
		増加	維持	減少
		拡大		
		維持	○	
		減少		
③成果面評価(活動指標・成果指標から成果面を評価)	(判定理由)	年間貸付頭数を75頭とし5年間の貸付とする。		
		拡大	維持	減少
		コスト・成果ポジション		
		E		
		第3水準		

目的評価「A・B」かつコスト・成果「第1水準」	→	I「良い」	良好な水準を維持
目的評価「A・B」かつコスト・成果「第2水準」	→	II「やや良い」	「I」の水準に向けた改善が必要
目的評価「A・B」かつコスト・成果「第3水準」	→	III「普通」	「II」の水準に向けた改善が必要
目的評価「A・B」かつコスト・成果「第4水準」	→	IV「やや良くない」	「III」の水準に向けた改善が必要
目的評価「C・D」もしくはコスト・成果「第5水準」	→	V「良くない」	「IV」の水準に向けた改善もしくは事業の休止、廃止などの検討が必要

分析・評価(Check)により明らかになった課題・問題点

国の事業廃止により、国庫補助分を返還中(H23年度まで)であり返還後の貸付内容等見直しが必要と思われる。

5 今後の方向性(Action)

活動の方針	評価結果に対する改善提案(下記チェック)	現状維持 ■ 改善・継続 ■ 終期設定 ■ 休止 ■ 廃止 ■ 完了 ■
	年間75頭貸付、年間貸付金額31,000千円とする	
	次年度の実施方針	前年同様

一次評価 主管課	III
判断の理由	5年間の無償貸付により、繁殖牛の更新・増頭が効率よく行える。

総合評価		
コスト	成果	評価区分
中	中	III
判断の理由等		
「II」以上の水準に向けた改善が必要		
繁殖雌牛の増頭は、飛騨牛の安定供給や販路拡大のために必要であり、今後も継続して実施していく必要がある。繁殖雌牛4,000頭の実現に向け、繁殖雌牛の増頭や規模拡大につなげていく手法についての検討が必要である。		